



田原市地域コミュニティ連合会

会報第12号
2017. 1. 16

- 「田原市地域コミュニティ連合会」は、地域コミュニティによる“自主的なまちづくり”を目指すため、それまでの総代会に代わって、平成23年度に発足しました。
- 連合会では、地域コミュニティ活性化のための調査・研究、定例理事会などでの意見交換、交流スポーツ大会、市への要望活動などを行っています。

◆平成28年度 連合会活動方針

目標とする地域社会	“誰もが暮らしやすい社会”
活動目標	みんなが参加し、互いに尊重・助け合う地域づくりの場
推進項目	①コミュニティ活動の目的・目標をみんなで共有しましょう。 ②一人ひとりが出来ることから取り組む全員参加のまちづくりを進めましょう。 ③情報交換や交流イベント等により、連帯意識を高め、人づくりを進めましょう。

■連合会研修会の開催

平成28年11月11日（金）／田原市役所 講堂

地域づくりの取り組みを行う上での実践的なノウハウ・スキルを学ぶ機会として研修会を開催しました。今回は清田・福江校区まちづくり推進協議会のみなさんに講師を依頼し、これまでの取り組みや本年度都市景観大賞の「景観まちづくり活動・教育部門」の大賞（国土交通大臣賞）を受賞した「景観まちづくり 街のみんなでおもてなし『福江＊つるし飾りロード』」についてお話しいただきました。

各コミュニティ協議会から参加希望者を募り、当日は理事を始め自治会長や地域のまちづくりに関わる方など合計101名の方にご参加いただきました。今年度は新たなまちづくり推進計画を策定する年にあたるため、参加されたみなさんは自分たちのまちづくりに何か活かせることはないかと熱心に耳を傾けていました。



講話内容

- 設立の経緯
- 散策路・ポケットパーク部会
- にぎわい部会
- 免々田川ネットワーク部会
- 福江＊つるし飾りロードの取り組み
- 道路のクリーンアップ作業

■交流スポーツ大会の開催

平成28年6月11日（土）／渥美運動公園屋内競技場



この大会は、地域のスポーツ振興と、コミュニティ協議会内外の交流・連帯意識の向上を目指して開催しているもので、今回で**6回目**となります。合併前は各町で町民体育祭などの行事が行われ、自分が住む地域以外の方たちと交流する場があったのですが、こうした機会がなくなったという声があり、平成23年度から連合会事業として実施しているものです。

当日は市内20のコミュニティ協議会から、**合計457名**の参加がありました。競技は「玉入れ」と「フライングディスクゴルフ」の2種目を行いました。両競技とも1チーム10名（内2名以上女性）で構成し、4つのブロックに分かれて予選リーグを行い、各ブロック1位のコミュニティ協議会が、決勝トーナメントで順位を争いました。結果、「玉入れ」は若戸校区コミュニティ協議会が、「フライングディスクゴルフ」は衣笠校区コミュニティ協議会がそれぞれ優勝しました。

選手編成には各地域の個性があふれ、交流が目的の大会とはいえ、いざ試合が始まるとどの試合も白熱し、会場は笑顔と歓声に包まれていました。異なる地域の名前や顔も知らない方同士が交流できる良い機会となりました。

■交流スポーツ大会 結果

玉入れ	
優勝	若戸校区コミュニティ協議会
準優勝	泉校区コミュニティ協議会
第3位	六連コミュニティ協議会 衣笠校区コミュニティ協議会
フライングディスクゴルフ	
優勝	衣笠校区コミュニティ協議会
準優勝	若戸校区コミュニティ協議会
第3位	六連コミュニティ協議会 亀山コミュニティ協議会
連合会長特別賞	
がんばりま賞	堀切地区コミュニティ協議会



■先進活動事例の視察研修

田原市地域コミュニティ連合会では、他県の地域コミュニティ等の活動先進事例を研究し、地域の問題解決の参考とするため視察研修を行っています。今回「滋賀県長浜市 田根地区地域づくり協議会」の取り組み事例を研修しましたので、自分たちの地域活動に活かしたいと思います。

平成28年11月30日（水）／（滋賀県長浜市）田根地区地域づくり協議会

◆視察先対応◆

- ・田根地区地域づくり協議会長、代表理事

◆地域の概況◆

- ・14自治会、555世帯、人口1,681人、高齢化率34.15%、面積1,341haうち森林822ha（61%）（H27.12）
- ・四季折々の美しい自然を有する風光明媚な地域です。また、五人の先人「相應和尚、海北友松、小堀遠州、片桐且元、小野湖山」に由來した地域です。

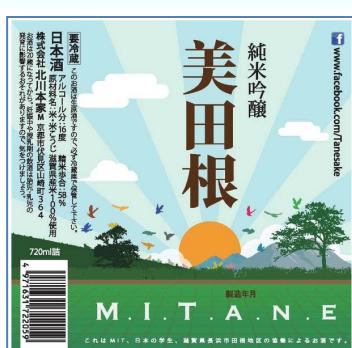
◆活動の状況◆

- ・高齢者対策として、滋賀県社会福祉事業団と協働し、認知症対応デイサービス「さくら番場」の開設に関わりました。
- ・空き家対策として、大きな古民家を改修し、学生の寝泊まりやワークショップの活動拠点として利用し、シンポジウムなども行う知の拠点「きゃんせの場」に生まれ変わらせました。
- ・獣害対策として、同志社大学、関西学院大学などの学生や社会人でつくる「S o H u b」のプロジェクトの一つとして、鹿やイノシシの捕獲用の檻やワナの開発が京都の企業との協働で進めています。また、地元の食育研究グループの協力を得て、捕獲した鹿肉を加工した「田根シカバーガー」を開発し、地元イベントや道の駅などで試験販売し好評でした。
- ・京都・伏見の蔵元・北川本家と出会い、田根で育てた「五百万石」という酒米を原料に「美田根」というお酒を醸造しました。



参加理事の意見（抜粋）

- 外から人に来てもらうことにより地域の良さを再認識させる、マスコミの協力により活動提示をすることで地域の人に愛着と誇りを持たせるといった「地域づくりは意識づくり」を活動のポイントとしている点が参考になった。
- 課題を魅力と捉えチャンスとして生かす前向きな姿勢は、リーダーとして見習う点である。
- 「地域のことは地域で解決する」という考えはごく当たり前のことであるが簡単ではない。田根地区がそれを実践できているのは、長く役員を務めて努力していることや大学との出会いなど様々な要因があるが頭が下がる思いである。
- 獣害対策として捕獲したイノシシ肉の活用を考えていたが、田根地区が実践していて参考になった。



■地域活動支援要望書の提出

平成28年10月4日（火）／田原市役所 應接室

田 原市市民協働まちづくり条例で、まちづくりの基礎的団体として位置付けられている地域コミュニティ団体への支援を求める**地域活動支援要望書**を、山下政良市長へ提出しました。

内容は、これまで実施されている活動支援、施設整備支援の内容を引き継ぐとともに、更なる支援内容の充実を検討していただくものとしています。

当日は、市長のほか、副市長、総務部長が同席のもと、財源、組織及び事業推進等について意見交換を行いました。

意見交換の内容（一部抜粋）

- 地域コミュニティは大事であると認識している。地域コミュニティ連合会の要望として真摯に受け止める。
- 財源確保については、非常に厳しい状況であり、33年度には28年度比で50億円の減となる見込みである。事業費の削減で対応せざるを得ないが、コミュニティに関する財源については、確保に努めていきたい。
- 連合会事務局の体制として、4月から総務課へ変更したが、総務課は私たちに近く手の届きやすいところにある。地域コミュニティの活動がうまく回るための体制・組織を考えていきたい。



■平成28年度 連合会の主な事業運営状況

4月	定期総会・地区行政連絡会
6月	交流スポーツ大会
6月	連合会会報（11号）発行
10月	地域活動支援要望書提出
11月	連合会研修会
11月	先進地視察研修
1月	連合会会報（12号）発行

- その他
 - ・定例理事会開催（毎月）
 - ・各種審議会への委員参加（隨時）
 - ・地域コミュニティ活性化研究会の開催

自治会加入・地域活動への参加のお願い

自治会では、親睦交流活動、防災活動、交通安全・防犯活動、清掃活動など皆さんが住みやすくなるよういろいろな活動をしています。そこに住む一人ひとりの力が必要ですでの、自治会加入・活動参加をお願いします。



連合会ホームページをご覧ください

田原市地域コミュニティ連合会では、活動内容や各協議会のイベントなどの情報をホームページでお知らせしています。ぜひご覧ください。

田原市地域コミュニティ連合会

検索

編集：田原市地域コミュニティ連合会事務局
(田原市役所 総務課)

電話 0531-23-3504
メール tahara-komiren@city.tahara.aiichi.jp
ホームページ <http://tahara-komiren.com/>